

資 料

## 愛媛県における翼手目の生息記録

山本貴仁<sup>1</sup>・阿部嘉昭<sup>2</sup>・山本栄治<sup>3</sup>・宮本大右<sup>4</sup>

List of Chiroptera in Ehime Prefecture, Shikoku Japan.  
Takahito Yamamoto, Yoshiaki Abe, Eiji Yamamoto, Taisuke Miyamoto

We gathered the previous reports, a specimen records, and observation records about the bats in Ehime Prefecture. The result we have catalogued a total of 17 species of bats and it was accepted that 14 of kinds of it lived in Ehime Prefecture. However, there is also an area whose investigation is not enough and continuous investigation is called for.

### はじめに

愛媛県における翼手目の生息記録は、分類学的研究のための採集記録、寄生虫研究のための宿主の採集記録、開発に伴う環境調査報告、特定地域の動物相に関する調査報告などによるものがある。そして、これらの記録は森井(1992)により、四国における水平分布としてまとめられている。また、前田(1986)、Yoshiyuki(1989)は全国の採集記録を報告し、沢田(1994)は全国のコウモリが生息する洞窟をまとめた中で、愛媛県の採集記録を報告している。

著者らは、これまでに報告されている文献、県内の博物館に収蔵されている標本、未発表の観察記録を収集し、2003年までの県内の翼手目の生息記録を整理することを試みた。なお、今回確認した文献以外の文献や生息地に関する情報があればご教示いただきたい。

### 調査方法

文献については印刷公表されているものを対象としたが、コテングコウモリについてはインターネット上で公表されている報告があり、これを採用した。文献のうち、生息地の記載について「四国」とのみ記載されたものは対象とせず、「愛媛県」及び県内の市町村名、大字名、山名、山域の名称が記載されているものを採用した。なお、愛媛県の翼手目に関する記載のある文献を全て網羅する点から、引用による記載も含めている。

標本は県内の博物館および博物館相当施設、博物館類似施設のうち翼手目の標本を収蔵していた愛媛県総合科学博物館(EPSM)と面河山岳博物館を対象とした。観察記録は再検討可能な写真などが存在するもののほか、著者自身の確認によるなど、信用のできる情報のみを採用した。なお、捕獲による確認は、環境省、愛媛県の捕獲許可を得たうえで行ったものである。

記載内容は、愛媛県内における生息状況の概要、文献による確認では地名、著者、発行年とした。

地名は文献の記載に従ったが、地名表記が著者により、また、同じ著者であっても文献により異なることがあり、調査内容を確認したうえで同一場所と確認できたものについては、一つの地名に統合して記載した。また、洞窟名や大字名のみ記載されている場合は、市町村名を加え、旧市町村名の場合は、現在の市町村名を付記した。観察記録は観察場所、観察年月日、頭数、観察者を記した。

分類、学名は阿部ほか(1994)に従い、記載されている学名が阿部ほか(1994)と異なる場合は、前田(1996)を参照した。

### 記 載

#### キクガシラコウモリ

*Rhinolophus ferrumequinum* (Schreiber, 1774)

県下に広く分布し、海岸から山地まで記録がある。洞窟、鉱山の廃坑、廃屋の他、使っていない炭焼き窯(山本, 1986)でも確認されている。また、公衆トイレ、トンネル内壁を夜間の休憩場所として利用しているのが観察されている。これまで、県内での繁殖コロニーは確認されていなかったが、2003年に伊予三島市金砂町の廃屋

1 愛媛県総合科学博物館 振興課 企画普及係

2 〒792-0813 新居浜市下泉町2-5-8

3 〒791-3511 小田町大字吉野川1127 山本森林生物研究所

4 〒798-0027 宇和島市柿原349 ネイチャー企画

において数百頭からなる繁殖コロニーが確認された。

#### 文献

新宮村馬立蛇穴 (Yoshiyuki, 1989)  
 大洲市船原船原ノ穴 (Yoshiyuki, 1989)  
 砥部町川登立野 (Yoshiyuki, 1989) \* 廃坑内。  
 砥部町川登川下坑 (Sawada, 1983; 沢田, 1988;  
 Yoshiyuki, 1989; 沢田, 1994)  
 小田町 (今泉, 1960; Sawada, 1968)  
 小田町日野川 (石川, 1954; Yoshiyuki, 1989)  
 小田町日野川白ヶ滝洞 (石川, 1954; 吉行, 1976)  
 小田町日野川白ヶ岳東洞 (森井ほか, 1998; 山内,  
 2000)  
 小田町日野川白ヶ岳西洞 (森井ほか, 1998; 山本・土  
 居, 2000a)  
 小田町小田町洞 (森川, 1966; 沢田, 1976; 沢田,  
 1981; 沢田, 1988; 森井ほか, 1998; 山本・土居,  
 2000a)  
 小田町小田深山廻り淵洞 (森井ほか, 1998; 山本・土  
 居, 2000a)  
 小田町小田深山淵首洞 (森井ほか, 1998)  
 小田町小田深山深山洞 (森井ほか, 1998; 山本・土  
 居, 2000a; 山内, 2000)  
 小田町淵首雨霧洞 (吉行, 1976; Yoshiyuki, 1989;  
 森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 小田町南山南山洞 (森井ほか, 1998; 山本・土居,  
 2000a)  
 小田町南山の穴 (森川, 1966)  
 小田町獅子越 (山本・土居, 2000a)  
 小田町吉野川宮之谷 (山本, 1986) \* 炭窯内。  
 柳谷村日浦洞 (森川, 1966; 沢田・片谷, 1977; 吉  
 行, 1976; Yoshiyuki, 1989; 森井ほか, 1998)  
 柳谷村中久保洞 (森川, 1966; 沢田・片谷, 1977; 沢  
 田, 1988; 森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 柳谷村奈良藪待木山ノ縦穴 (吉行, 1976; Yoshiyuki,  
 1989)  
 野村町椎ノ木駄馬椎ノ木駄馬ノ縦穴 (吉行, 1976;  
 Yoshiyuki, 1989)  
 野村町阿下久保谷ちんから洞 (吉行, 1976; Yoshiyuki,  
 1989)  
 野村町阿下久保谷マンガン採掘跡 (吉行, 1976;  
 Yoshiyuki, 1989)  
 野村町羅漢穴 (沢田, 1976; 吉行, 1976; 沢田・片  
 谷, 1977; Sawada, 1983; 沢田, 1988; Yoshiyuki,  
 1989; 森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 野村町小羅漢穴 (吉行, 1976)  
 美川村上黒岩黒岩洞 (吉行, 1976; Yoshiyuki, 1989;  
 森井ほか, 1998)  
 美川村藤社藤社ノ縦穴 (吉行, 1976; Yoshiyuki, 1989)

美川村筒城穴神洞 (吉行, 1976; Yoshiyuki, 1989)  
 美川村仕出ヶ岳洞 (森川, 1966)  
 長浜町豊茂金山 (Yoshiyuki, 1989) \* 洞窟内。  
 長浜町郷峠金山廃坑 (Sawada, 1983; 沢田, 1988;  
 沢田, 1994)  
 長浜町マンガン廃坑 (沢田, 1994)  
 明浜町法華津穴ノ御前 (吉行, 1976; Yoshiyuki, 1989)  
 吉田町立間奥井谷白井谷ノ穴 (吉行, 1976; Yoshiyuki,  
 1989)  
 保内町川之石廃坑 (Yoshiyuki, 1989)  
 保内町踏坂鉾山廃坑 (Sawada, 1982; 沢田, 1988)  
 面河村面河溪谷 (Abe et al., 1970)  
 面河村石鎚山 (Abe et al., 1970; 森川, 1979)  
 標本  
 伊予三島市金砂町 EPSM-M-805, EPSM-M-806  
 仮剥製  
 土居町上野 EPSM-M-804 仮剥製  
 西条市市之川 EPSM-M-807 仮剥製  
 砥部町上原町 EPSM-M-803 仮剥製  
 小田町吉野川宮之谷 EPSM-M-891, 液浸標本  
 観察記録  
 伊予三島市金砂町 2003年6月24日 (100頭以上), 廃  
 屋で確認。繁殖コロニー。2003年6月に子を抱く  
 を確認, 阿部嘉昭・山本貴仁。  
 伊予三島市金砂町 2003年10月2日 (2頭), 廃坑内  
 で確認。阿部嘉昭・山本貴仁。  
 別子山村下七番 2002年8月4日 (1頭), 旧トン  
 ネルで確認, 阿部嘉昭。(現, 新居浜市別子山)  
 新居浜市大永山河又 2003年5月4日 (1頭), 廃屋  
 で確認, 阿部嘉昭。  
 新居浜市大生院 1998年10月28日 (1頭)。鳥類標  
 識調査の網に入る。山本貴仁  
 西条市市ノ川 2001年12月21日 (1頭), 廃坑内で確  
 認。12月28日にも隣接する別の廃坑で1頭を確認。  
 阿部嘉昭。  
 小松町石鎚 2002年10月13日 (1頭), 廃屋で確認。  
 阿部嘉昭。  
 今治市桜井 1995年5月29日 (6頭), 海食洞, 山本  
 貴仁。  
 朝倉村野々瀬 2002年9月8日 (2頭), 古墳内, 田  
 中 弘。  
 岩城村積善山 1996年11月16日 (1頭), 廃坑。中西  
 秀治。2002年11月10日 (15頭) 山本貴仁・田中  
 弘。  
 砥部町上原町とべ動物園内 2002年8月25日 (2頭),  
 園内のトイレ内で確認。高村裕二。  
 砥部町外山外山公園 2003年3月24日 (4頭), 高村  
 裕二。

小田町吉野川 2000年11月14日(1頭), 2001年4月21日(1頭), 自宅蔵で目撃, 山本栄治.  
 保内町喜木 1999年9月13日(複数個体), 廃坑. 山本貴仁・水本孝志.  
 三崎町水尻 2002年3月30日(1頭), 鳥類標識調査の網に入る. 山本貴仁.  
 内海村由良半島先端部 2003年12月22日(10頭), 防空壕内. 宮本大右.

## コキクガシラコウモリ

*Rhinolophus cornutus* Temminck, 1835

主に山間部の洞窟, 素掘のトンネル, 廃坑から記録があり, 小規模な洞窟, 廃坑でも棲息している. 小田町の竜王さんの穴では約200頭が観察されている. 繁殖に関する情報は得られなかったが, 城川町黒瀬川鍾乳洞では冬期に多数が確認されているほか(愛媛県教育委員会2003), 伊予三島市金砂町の廃坑でも冬期に少数が確認されている. 新居浜市別子山では, 道路沿いの要壁等にぶら下がっていた個体が, 車の接近により飛び出し, しばしば車に衝突することがある.

### 文献

砥部町川登川下坑 (Yoshiyuki, 1989)  
 大洲市蔵川 (石川, 1954)  
 肱川村山鳥坂鹿野川ダム付近 (Yoshiyuki, 1989) (現, 肱川町山鳥坂)  
 河辺村町木山 (愛媛県教育委員会文化財保護課, 2003)  
 小田町日野川白ヶ滝洞 (石川, 1954)  
 小田町日野川白ヶ岳西洞 (森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 小田町小田深山廻り淵洞 (森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 小田町小田深山深山洞 (森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 小田町小田深山雨霧洞 (Yoshiyuki, 1989; 森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 小田町小田深山鬼ヶ臼洞 (Yoshiyuki, 1989)  
 小田町天神下竜王さんの穴 (森井ほか, 1998; 山内, 2000)  
 小田町南山南山洞 (森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 小田町小田町洞 (山本・土居, 2000; 愛媛県教育委員会文化財保護課, 2003)  
 柳谷村中津山神洞 (森井ほか, 1998)  
 柳谷村中久保洞 (森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 柳谷村古味の穴 (森川, 1966)  
 美川村上黒岩黒岩洞 (石川, 1954; 森川, 1966;

Maeda, 1978; 森井ほか, 1998; 愛媛県教育委員会文化財保護課, 2003)  
 美川村筒城穴神洞 (愛媛県教育委員会, 2003)  
 野村町小羅漢穴 (Kifune & Sawada, 1980; 沢田・片谷, 1977; 沢田, 1981; 森井ほか, 1998)  
 野村町羅漢穴 (石川, 1954; 沢田, 1976; 沢田, 1981; 沢田・片谷, 1977; Sawada, 1983; Yoshiyuki, 1989; 山本・土居, 2000a)  
 野村町椎の木駄の縦穴 (Yoshiyuki, 1989)  
 大川村下桐大川洞 (石川, 1954) (現, 大洲市森山下桐)  
 城川町穴神鍾乳洞 (森井ほか, 1998; 愛媛県教育委員会文化財保護課, 2003)  
 城川町川津南 (Yoshiyuki, 1989) \* 洞窟内で採集, 洞窟名は未記載.  
 城川町黒瀬川洞 (Yoshiyuki, 1989; 愛媛県教育委員会文化財保護課, 2003)  
 吉田町 (Yoshiyuki, 1989) \* 洞窟内で採集, 洞窟名は未記載.  
 吉田町法華津穴御前 (今泉, 1960; Yoshiyuki, 1989; 愛媛県教育委員会文化財保護課, 2003)  
 玉津村 (今泉, 1960) (現, 吉田町玉津)  
**標本**  
 別子山村中七番 EPSM-M-813 仮剥製 (現, 新居浜市別子山)  
 別子山村弟地 EPSM-M-817 仮剥製 (現, 新居浜市別子山)  
 伊予三島市金砂町 EPSM-M-814, EPSM-M-815, EPSM-M-820 仮剥製  
 伊予三島市富郷町 EPSM-M-816 仮剥製  
 新居浜市大永山 EPSM-M-818, EPSM-M-819, EPSM-M-873, EPSM-M-896 仮剥製  
 新居浜市立川町 EPSM-M-821 仮剥製  
 野村町羅漢穴 EPSM-M-864 仮剥製  
 小田町 面河山岳博物館標本 乾燥標本  
 小田町小田深山雨霧洞 EPSM-M-865, EPSM-M-866, EPSM-M-867, EPSM-M-868, EPSM-M-869, EPSM-M-870, EPSM-M-871, EPSM-M-872 仮剥製  
**観察記録**  
 伊予三島市金砂町 2002年3月23日(29頭), 冬眠中の個体, 阿部嘉昭.  
 伊予三島市富郷町寺野 2001年8月(1頭), 交通事故. 阿部嘉昭.  
 伊予三島市小川柳瀬ダム付近 2002年8月10日(1頭), 交通事故. 阿部嘉昭.  
 伊予三島市瀬井野 2002年8月3日(1頭), トンネル内で確認, 阿部嘉昭.

新居浜市別子山下七番 2003年11月20日(1頭), トンネル内にぶら下がる. 阿部嘉昭.  
 別子山村中七番 2001年9月(1頭), 2002年7月27日(1頭), 交通事故. 阿部嘉昭.  
 別子山村弟地 2002年7月27日(1頭), 交通事故. 阿部嘉昭.  
 新居浜市大永山河又 2002年8月17日(1頭), 交通事故. 阿部嘉昭.  
 新居浜市大永山鹿森 2002年9月13日(1頭), 交通事故, 阿部嘉昭.  
 新居浜市立川町 2002年8月25日(1頭), 交通事故. 阿部嘉昭.  
 玉川町鴨部犬塚池 1986年9月2日(2頭), 排水坑内で確認. 山本貴仁.  
 小田町小田町洞 2000年9月4日(数個体), バットデテクターで確認. 山本栄治.  
 肱川町下小藪 2001年9月9日(10頭前後), 民家内に洞口のある洞窟. 山本栄治.  
 八幡浜市日土町 2001年5月7日(50頭以上). 鍾乳洞. 山本貴仁・水本孝志.  
 保内町喜木 1999年9月13日(複数個体). 廃坑. 山本貴仁・水本孝志.

## モモジロコウモリ

*Myotis macrodactylus* (Temminck, 1840)

主に山間部の洞窟で記録されており個体数も多い. 新居浜市(旧別子山村)などでの観察では, 夜間道路上を低空で採餌している個体が多く見られ, しばしば車に衝突する.

越冬期に伊予三島市で確認された個体は, 継続して同じ場所に滞在しておらず, 冬季でも頻繁に活動しているようである. 繁殖に関する情報は現在のところない.

### 文献

小田町小田深山廻り淵洞(森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 小田町小田深山深山洞(森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 小田町小田深山雨霧洞(森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 小田町小田町洞(山本・土居, 2000a)  
 小田町天神下龍王さんの穴(森井ほか, 1998)  
 柳谷村日浦洞(Yoshiyuki, 1989)  
 柳谷村中久保洞(森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 面河村面河溪(Abe et al., 1970)  
 面河村石鎚山(Abe et al., 1970; 森川, 1979)  
 美川村筒城穴神洞(Yoshiyuki, 1989)  
 野村町大久保羅漢穴(森井ほか, 1998; 山本・土居,

2000a)

吉田町法華津穴御前(森井ほか, 1998)  
 保内町川之石(Yoshiyuki, 1989)\*洞窟内.  
 保内町踏坂鉾山廃坑(Sawada, 1982)  
 保内町マンガン廃坑(沢田, 1989)  
 城川町魚成黒瀬川洞(Yoshiyuki, 1989)  
 標本  
 伊予三島市金砂町 EPSM-M-799 本剥製  
 伊予三島市富郷町 EPSM-M-800 本剥製  
 別子山村中七番 EPSM-M-812, EPSM-M-825, EPSM-M-826, EPSM-M-890 仮剥製(現, 新居浜市別子山中七番)  
 別子山村下七番 EPSM-M-904 仮剥製(現, 新居浜市別子山中七番)  
 別子山村弟地 EPSM-M-824 仮剥製(現, 新居浜市別子山弟地)  
 西条市中奥 EPSM-M-827 仮剥製  
 柳谷村中久保洞 EPSM-M-887, EPSM-M-888 仮剥製  
 面河村 面河山岳博物館標本 乾燥標本  
 小田町小田深山雨霧洞 EPSM-M-889 仮剥製  
 小田町小田町洞 EPSM-M-892 液浸標本  
 観察記録  
 伊予三島市金砂町 2003年11月18日(1頭), 阿部嘉昭.  
 伊予三島市富郷町 2001年10月(1頭), 2002年9月11日(1頭), トンネル内で確認. 阿部嘉昭.  
 伊予三島市金砂町 2001年11月(2頭), 2002年1月13日(1頭), 2002年1月23日(2頭), 2002年2月16日(1頭), 2002年4月1日(2頭), 2002年11月23日(1頭), 2003年11月17日(1頭). 阿部嘉昭.  
 別子山村筏津 2002年7月10日(1頭), 交通事故. 阿部嘉昭.(現, 新居浜市別子山筏津)  
 新居浜市鹿森ダム付近 2003年9月14日(1頭), 阿部嘉昭.  
 新居浜市立川町鹿森ダム第一隧道内 2002年9月3日(1頭), 阿部嘉昭.  
 西条市中奥 2002年4月21日(1頭), 阿部嘉昭.  
 西条市飯岡皇子池 2003年3月16日(1頭), 土管内で確認. 阿部嘉昭.  
 松野町若山隧道 2002年7月6日(100頭以上), 宮本大右.

## ホオヒゲコウモリ

*Myotis mystacinus* Kuhl, 1819

森川(1979)は, 石鎚山の哺乳類目録の中でホオヒゲコウモリ *Myotis mystacinus* を挙げている. これは, Abe et al (1970) の採集記録に *Myotis mystacinus* の記載があ

り、これを引用したものと思われる。Abe et al (1970) の調査時に採集された1頭は、前田(1984)によりクロホオヒゲコウモリ *Myotis pruinus* として報告されている。

### クロホオヒゲコウモリ

*Myotis pruinus* Yoshiyuki, 1971

日本国内で10数頭しか見つかっておらず、詳しい生息状況は不明である(阿部, 1994)。県内では、面河村面河溪谷と柳谷村日浦洞での記録があるが、以後生息の情報が得られていない。吉行(1974)によると、日浦洞で捕獲された個体は、3月22日に冬眠中の1頭が洞窟内の天井の割れ目に単独で潜っていたもので、性別は雄であった。なお、この個体は国立科学博物館に保管されている(EPSM-M17094)。また、前田(1984)によると面河村面河溪谷で1969年8月14日に採集された1頭も雄であった。

#### 文献

面河村面河溪 (Abe et al., 1970)

柳谷村日浦洞 (吉行, 1974; Yoshiyuki, 1989)

### ノレンコウモリ

*Myotis nattereri* (Kuhl, 1818)

県内の森林内や洞窟などで記録されているが、数は少ない。柳谷村中久保洞では1997年10月3日(2頭)、10月7日(2頭)、1998年5月27日(6頭)、10月3日(1頭)の計11頭が確認されているが全て雄であり、小田町の白ヶ岳東洞で1999年12月23日に冬眠中の1頭が確認されているが、これも雄であった(山本・土居, 2000a)。また、前田(1984)によると石鎚山で1969年8月6日に捕獲された1頭も雄であった。

#### 文献

石鎚山 (Abe et al., 1970; 森川, 1979)

柳谷村中久保洞 (森井ほか, 1998, 山本・土居, 2000a)

小田町白ヶ岳東洞 (山本・土居, 2000a; Kifune et al., 2001)

野村町小羅漢洞 (森川, 1966)

#### 標本

伊予三島市金砂町 EPSM-M-829 仮剥製

小田町小田深山雨霧洞 EPSM-M-830 仮剥製

#### 観察記録

西条市中奥 2002年4月18日(1頭), 2002年4月21日(1頭), 2002年10月13日(1頭), 阿部嘉昭。

小松町高瀑 2002年10月13日(4頭), 阿部嘉昭。

### アブラコウモリ

*Pipistrellus abramus* (Temminck, 1840)

県下に棲息するコウモリ類の中では最も広く分布し、また個体数も多いと思われるが調査が行われていないために、文献による情報も標本も少ない。ただ、山間部には少ないようで、小田町では1996年に雄1頭が確認されているのみである(山本・土居, 2000a)。

#### 文献

東予市壬生川 (Yoshiyuki, 1989)

小田町本川 (森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)

野村町阿下野村高校 (Yoshiyuki, 1989)

#### 標本

新居浜市 EPSM-M-861 仮剥製

西条市大町 EPSM-M-898 仮剥製

松山市山越 西原博之氏所蔵 液浸標本

宇和町下松葉 西原博之氏所蔵 液浸標本

松山市真砂町 EPSM-M-903 仮剥製

松野町吉野 EPSM-M-902 仮剥製

#### 観察記録

新居浜市大生院 1999年11月12日(1頭), 建物に侵入した個体を確認, 山本貴仁。

西条市飯岡 2000年3月23日(1頭 2頭), 改修中の家屋で確認。山本貴仁。

西条市荒川 2002年7月24日(1頭), 捕虫網で捕獲後放獣, 山本貴仁。

### モリアブラコウモリ

*Pipistrellus endoi* Imaizumi, 1959

1969年に面河村面河溪、石鎚山で確認されて以後、記録はない。Abe et al (1970)によると、1969年の8月6日から15日の間に調査が行われ、石鎚山の1600m付近のブナ林で2頭、標高700mの面河溪谷で3頭が捕獲されている。前田(1984)によると、この5頭は雄3頭、雌2頭であった。森川(1979)の記載は、Abe et al (1970)を引用したものと思われる。

#### 文献

面河村面河溪 (Abe et al., 1970)

面河村石鎚山 (Abe et al., 1970; 森川, 1979)

### ヤマコウモリ

*Nyctalus aviator* Thomas, 1911

森川(1960)の石鎚山の哺乳類目録の中で「面河」との記載があるが、詳細な採集記録は記載されておらず、標本の所在も不明である。清水(1961)も、愛媛県に生息するコウモリとして本種を挙げているが、具体的な生息地、採集場所の記載はない。高知県での採集例はあることから(今泉, 1960; yoshiyuki, 1989), 愛媛県にも生息している可能性はある。

#### 文献

面河村 (森川, 1960)

**コヤマコウモリ***Nyctalus furuus* Imaizumi & Yoshiyuki, 1968

清水 (1961) によると、愛媛県に生息するコウモリとして本種を挙げているが、具体的な生息地、採集場所等の記載はない。本種は岩手県、福島県の合計3箇所から採集記録があるのみであり(前田, 1996)、愛媛県に生息しているとは考えにくい。

**ヒナコウモリ***Vespertilio superans* Thomas, 1899

1969年に、面河村面河溪、石鎚山で確認されて以後、記録はない。Abe et al (1970) によると、1969年の8月6日から15日の間に調査が行われ、標高700mの面河溪で3頭が捕獲されている。なお、前田 (1984) によると、この3頭は全て雄であり採集日は1969年8月13日である。なお、森川 (1979) の記載は、Abe et al (1970) を引用したものと思われる。

## 文 献

面河村面河溪 (Abe et al., 1970; 森川, 1979)

**チチブコウモリ***Barbastella leucomelas* (Cretzschmar, 1826)

県内では面河村面河溪谷からのみ記録されている。Abe et al (1970) による調査は、ヒナコウモリ、チチブコウモリが捕獲された時の調査と同じ調査によるものであり、前田 (1984) によると1969年8月13日に1頭の雄が採集されている。また、内田・安藤 (1972) は、1971年6月17日に面河村面河溪谷にて1頭の雄を採集している。以後、県内での記録はなく、森川 (1979) の記載は、Abe et al (1970) を引用したものと思われる。

## 文 献

面河村面河溪 (Abe et al., 1970; 内田・安藤, 1972; 森川, 1979)

**ウサギコウモリ***Plecotus auritus* (Linnaeus, 1758)

県内の森林内や洞窟、廃屋で確認されているが、いずれも1頭か2頭であり生息数は少ない。伊予三島市における越冬期の観察では、付近に生息するキクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリに比べて冬眠に入る時期が遅く、また冬季でも頻繁に活動していた。

山本・土居 (2000a) により1997年10月8日に小田町深山洞で2頭、1998年11月13日に柳谷村日浦洞で冬眠中の1頭が記録されているが全て雄である。また、伊予三島市 (EPSM-M-831)、西条市中奥 (EPSM-M-832) で採集された両標本も雄であった。1969年8月6日に石鎚山の1600m付近のブナ林で捕獲された1頭 (前田, 1984) と面河村大成で採集された1頭 (Yoshiyuki, 1989) は

雌であった。

## 文 献

面河村石鎚山 (Abe et al., 1970; 森川, 1979)

面河村大成 (Yoshiyuki, 1989) \* 洞窟内。

小田町小田深山深山洞 (森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a; 愛媛県教育委員会文化財保護課, 2003)

柳谷村日浦洞 (山本・土居, 2000a)

美川村上黒岩黒岩洞 (森井ほか, 1998)

柳谷村中久保洞 (森川, 1966; 越智, 1962)

大野ヶ原寺山の縦穴 (森川, 1966)

\* 越智 (1962) によれば、1962年7月に四国カルストの大野ヶ原笹ヶ峰と寺村の縦穴調査を行い、四国で中久保洞について2例目のウサギコウモリを確認したとの記述があるが、いずれの縦穴であるかは明記されていない。なお、森川 (1966) には、大野ヶ原寺山の縦穴でウサギコウモリが発見されたとあり、大野ヶ原には寺村という地名がないことから、越智 (1962) の寺村の縦穴は、寺山の誤記であり、四国で2例目のウサギコウモリが発見されたのは、大野ヶ原寺山の縦穴であると思われる。

## 標 本

伊予三島市金砂町 EPSM-M-831 仮剥製

西条市中奥 EPSM-M-832 仮剥製

## 観察記録

伊予三島市金砂町 2002年2月9日 (1頭), 2002年2月25日 (1頭), 2002年2月28日 (1頭), 2002年3月28日 (1頭), 2002年11月4日 (1頭), 2003年11月17日 (2頭), 阿部嘉昭。

新居浜市大永山 2003年5月4日 (1頭), 2003年11月19日 (1頭), 廃屋で確認, 阿部嘉昭。

**ユビナガコウモリ***Miniopterus fuliginosus* (Hodgson, 1835)

主に山間部の洞窟で記録がある。小田町の小田町洞では5,000頭~10,000頭 (山内, 2000)、野村町の羅漢穴では数千頭が確認されている (山本・土居, 2000a)。ただ、繁殖期には、どちらの洞窟からもほとんどがいなくなり (山本・土居, 2000a) 繁殖洞は確認されていない。小規模な洞窟や洞窟の少ない地域からの報告は少ない。

## 文 献

小田町 (Sawada, 1968)

砥部町川登立野 (Yoshiyuki, 1989) \* 洞窟内。

小田町小田町洞 (森川, 1966; 沢田, 1976; 沢田, 1989; 森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a, 山内, 2000)

野村町羅漢穴 (森川, 1966; 沢田, 1976; Sawada, 1983; 沢田, 1989; Yoshiyuki, 1989; 森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)

城川町魚成黒瀬川洞 (Yoshiyuki, 1989)  
 美川村上黒岩黒岩洞 (Abe et al., 1970; 愛媛県教育委員会, 2003)  
 柳谷村大西字古味堀切洞 (石川, 1954)  
 柳谷村中久保洞 (森川, 1966)  
 長浜町豊茂金山 (Yoshiyuki, 1989)  
 吉田町法華津穴ノ御前 (石川, 1954; Yoshiyuki, 1989; 森井ほか, 1998; 愛媛県教育委員会, 2003)  
 標本  
 岩城町西部 EPSM-M-897  
 野村町羅漢穴 EPSM-M-400, EPSM-M-401 本剥製, EPSM-M-874, EPSM-M-875, EPSM-M-876, EPSM-M-877, EPSM-M-878, EPSM-M-879, EPSM-M-880, EPSM-M-881, EPSM-M-882, EPSM-M-883, EPSM-M-884, EPSM-M-885, EPSM-M-886 仮剥製  
 観察記録  
 新居浜市大永山鹿森 2001年8月(1頭), 路上で確認。阿部嘉昭。  
 新居浜市立川町 2002年9月6日(1頭), 急降下し車に衝突し死亡。阿部嘉昭。  
 西条市中奥 2003年3月4日(1頭), 阿部嘉昭。  
 松野町若山隧道 2002年7月6日(100頭以上), 外部計測後放獣。宮本大右。

## テングコウモリ

*Murina leucogaster* Milne-Edwards, 1872

主に四国カルストや小田深山など、標高の高い地域の洞窟で記録されているが、2002年2月9日に西条市の下島山(標高約40m)にてコンクリートトンネル内で休息する個体が確認された。

個体数は少なく通常1頭で見つかることが多いが、山本・土居(2000a)によると、中久保洞で1997年10月7日に行った出洞時の調査では雄9頭を捕獲している。また、小田町深山洞、柳谷村中久保洞、野村町羅漢穴では冬眠する個体が確認されている。

### 文献

小田町小田深山深山洞 (森井ほか, 1998; 愛媛県教育委員会文化財保護課, 2003)  
 小田町小田町洞 (山本・土居, 2000a)  
 野村町羅漢穴 (沢田, 1976; 沢田・片谷, 1977; Sawada, 1983; Yoshiyuki, 1989)  
 柳谷村中久保洞 (森川, 1966; Yoshiyuki, 1989; 森井ほか, 1998; 山本・土居, 2000a)  
 柳谷村奈良藪待木山ノ縦穴 (Yoshiyuki, 1989)

### 標本

別子山村弟地 EPSM-M-810 仮剥製(現, 新居浜市別子山)

西条市中奥 EPSM-M-808 仮剥製  
 面河村 面河山岳博物館標本 乾燥標本  
 美川村御三戸 面河山岳博物館標本 乾燥標本  
 小田町 EPSM-M-809 仮剥製  
 観察記録  
 伊予三島市金砂町 2002年10月10日(1頭), 阿部嘉昭。  
 別子山村下七番 2002年6月12日(1頭), 旧トンネル内で確認。阿部嘉昭。(現, 新居浜市別子山下七番)  
 西条市下島山 2002年2月9日(1頭), 阿部嘉昭。

## コテングコウモリ

*Murina ussuriensis* Ognev, 1913

県内の山間部で記録されているが、個体数は少ない。枯れたクズの葉の中や民家の軒下などでの発見例もあり、調査が進めば県内に広く生息している可能性もある。新居浜市別子山では、現在は使われていない、内壁がコンクリート吹き付けのトンネル内で、夜間に休息する個体が観察されている。

### 文献

面河村 (山本・土居, 2000a)  
 野村町羅漢穴 (沢田, 1976; 沢田・片谷, 1977)  
 肱川町河辺川周辺区域 (国土交通省四国地方整備局山鳥坂ダム工事事務所, 2002)

### 標本

別子山村下七番 EPSM-M-811 仮剥製(現, 新居浜市別子山)  
 新居浜市別子山筏津 EPSM-M-907  
 新居浜市大永山 EPSM-M-802 本剥製  
 西条市中奥 EPSM-M-828 仮剥製  
 面河村 面河山岳博物館標本  
 面河村面河溪 面河山岳博物館標本 乾燥標本  
 観察記録  
 伊予三島金砂町 2002年4月25日(1頭), 阿部嘉昭。  
 別子山村下七番 2001年10月29日(1頭), 2001年10月30日(1頭), 2003年9月13日(1頭), 阿部嘉昭。  
 2002年9月9日(1頭)。捕獲後放獣。阿部嘉昭・山本貴仁。(現, 新居浜市別子山下七番)  
 久万町父野川 2003年4月6日(1頭), 山本栄治。

## オヒキコウモリ

*Tadarida insignis* (Blyth, 1861)

これまでに県内では2頭の標本と1頭が保護されているがいずれも偶発的であり、生息地の確認には至っていない。1973年6月8日に、野村町阿下の野村高等学校内で採集された1頭は雌の亜成獣であり(Yoshiyuki, 1989; 毛利, 2000), 2000年3月7日に八幡浜市松柏の

八幡浜高等学校内で発見された1頭は雄の幼獣であった(宮内・前田, 2002)。また, 松山市の新田高等学校でも1頭が保護されている。八幡浜市, 砥部町, 三崎町, 新居浜市で本種のものと思われる声が確認されており, 今後生息地が発見される可能性がある。

#### 文献

野村町阿下 (Yoshiyuki, 1989; 毛利, 2000)

八幡浜市松柏 (宮内・前田, 2002)

#### 観察記録

新居浜市前田町 2003年4月9日, 本種のものと思われる声を確認。山本貴仁。

松山市山西町 2003年6月23日 (1頭), 新田高等学校校舎で保護, 後に放獣。丹下一彦・山本貴仁。

八幡浜市北浜 2000年8月22日, 本種のものと思われる声を確認。山本貴仁・宮内達郎・水本孝志。

三崎町水尻 2001年11月7日, 本種のものと思われる声を確認。山本貴仁。

### おわりに

既存の文献, 博物館の標本, 観察記録をまとめた結果17種を確認し, そのうち愛媛県に生息するコウモリとして14種類の生息記録を確認した。これらのうち, クロホオヒゲコウモリ, ノレンコウモリ, モリアブラコウモリ, ヒナコウモリ, チチブコウモリ, ウサギコウモリ, テングコウモリ, コテングコウモリ, オヒキコウモリは愛媛県版レッドデータブック(愛媛県, 2003)に情報不足として掲載されている。特にクロホオヒゲコウモリ, モリアブラコウモリ, ヒナコウモリ, チチブコウモリは, 20年近く新たな生息の情報が得られていない。また, 南予地方については調査そのものがほとんど行われておらず, 今後も継続的な調査が必要とされる。

### 謝辞

面河山岳博物館の矢野真志学芸研究員には, 標本調査に際し, 協力いただいた。

文献の収集には, 奈良教育大学の前田喜四雄先生, 愛媛大学農学部都築勇人氏, 小川次郎氏, 京都大学大学院農学研究科の佐々木尚子氏にお世話になった。中西秀治氏, 宮脇馨氏, 水本孝志氏, 高村裕二氏, 田中弘氏, 西原博之氏, 丹下一彦氏には生息情報をいただいた。また, 標本の収集に協力いただいた多くの方々感謝いたします。

### 引用文献

Abe, H., T. Kobayashi, K. Maeda & T. Miyao (1970): Faunal survey of the Mt. Ishizuchi area, JIBP main area

- II. Results of the small mammal survey on Mt. Ishizuchi area. Ann. Rep. JIBP/CT-S, pp. 7 - 14.

愛媛県教育委員会文化財保護課 (2003): 愛媛県の地質鉱物 天然記念物緊急調査 (地質鉱物) 報告書。愛媛県教育委員会。

愛媛県 (2003): 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物。愛媛県県民環境部環境局自然保護課, pp. 29 - 38.

石川重治郎 (1954): 四国の洞窟とその動物相 (その2)。高知女子大学紀要, 3 (1), pp. 34 - 45.

今泉吉典 (1960): 原色日本哺乳類図鑑。保育社, 大阪。196pp.

黒田長禮 (1940): 原色日本哺乳類図説。三省堂。東京, 311pp.

国土交通省四国地方整備局山鳥坂ダム工事事務所 (2002): 山鳥坂ダム環境調査結果概要。記者発表資料。http://www.skr.mlit.go.jp/yamatosai/

Maeda, K. (1978): Variation in bent-winged bats, *Miniopterus schreibersi* Kuhl, and least horseshoe bats, *Rhinolophus cornutus* Temminck in the Japanese Islands: I. External characters. Proc. Fourth Internatl. Bat Res. Conf., Kenya Nat. Acad. pp. 177 - 187.

前田喜四雄 (1984): 日本産翼手目の採集記録 (I)。哺乳類科学, 49. pp. 55 - 78.

前田喜四雄 (1986): 日本産翼手目の採集記録 (II)。哺乳類科学, 52. pp. 79 - 97.

前田喜四雄 (1996): 日本産翼手目 (コウモリ類) の分類レビューと解説。哺乳類科学, 36 (1). pp. 1 - 23.

宮内達郎・前田喜四雄 (2002): 愛媛県八幡浜高校敷地内で2000年3月に採集されたオヒキコウモリ。南予生物, 12, pp. 40 - 41.

森井隆三 (1992): 四国に棲息する翼手類の水平分布。香川生物, 19, pp. 21 - 36.

森井隆三・山本栄治・山内正・土居雅恵 (1998): 四国カルスト周辺 (愛媛県内) の翼手類について。香川生物, 25, pp. 25 - 29.

森川国康 (1960): ほ乳類。石鎚山系の自然と人文。愛媛新聞社, pp. 58 - 60.

森川国康 (1966): 四国カルストの動物。四国カルスト天狗高原周辺の学術調査報告書。高知県高岡郡東津野村・愛媛大学学術探検部, pp. 23 - 30.

森川国康 (1979): 石鎚・面河の哺乳類, 鳥類および爬虫類。石鎚山・面河地区自然環境保全調査報告書。財団法人日本自然保護協会, pp. 87 - 98.

毛利俊樹 (2000): オヒキコウモリ *Tadarida insignis* (BLYTH, 1861) の愛媛県での最初の採集記録。南予生物, 11. pp. 44.

越智研一郎 (1962): 大野ガ原のたてあな。愛媛の自然,

- 愛媛自然科学教室，4（9）. 裏表紙 .
- Sawada, I. (1968): Helminth Fauna of Bats in Japan IV. Annotationes zoologicae Japonenses, 41（1）. pp .9 - 10 .
- 沢田 勇（1976）: 糸虫相からみた日本産キクガシラコウモリ科コウモリの分布に関する2，3の知見 . 動物学雑誌，85（2）. pp .140～155 .
- 沢田 勇・片谷直治（1977）: 四国カルストに生息するキクガシラコウモリ科コウモリの内部寄生虫相 . 奈良教育大学紀要，26（2）.(自然). pp .1 - 5 .
- Kifune, T & Sawada, I. (1980): Helminth fauna of bats in Japan. XXV. Med. Bull. Fukuoka Univ, 7（3）. 263 - 272 .
- Kifune, T., I. Sawada and M. Harada (2001): Helminth Fauna of Bats in Japan. LIV. Med. Bull. Fukuoka Univ. 28（1）, pp .1 - 9 .
- 沢田 勇（1981）: コウモリと糸虫 . 遺伝，35（9），pp 69 - 74 .
- Sawada, I. (1982): Helminth Fauna of Bats in Japan XXV. Annotationes zoologicae Japonenses, 55（1）. pp 26 - 31 .
- Sawada, I. (1983): Helminth fauna of bats in Japan. XXIX. Annot. Zool. Jap, 56，pp 209 - 220 .
- 沢田 勇（1988）: 糸虫相からみたキクガシラコウモリ科コウモリの分布について . 奈良産業大学紀要，4，pp .169 - 207 .
- 沢田 勇（1989）: 糸虫相からみたヒナコウモリ科コウモリの分布について . 奈良産業大学紀要 . 5，pp .161 - 178 .
- 沢田 勇（1994）: 日本のコウモリ洞総覧 . 自然誌研究雑誌，pp 53 - 80 .
- 清水栄盛（1961）: 愛媛の動物 . 松菊堂，松山 . 235pp .
- 山内 正（2000）: 小田町の洞窟 . 小田深山の自然Ⅰ . 小田町，pp 27 - 59 .
- 山本栄治・土居雅恵（2000 a）小田深山およびその周辺の哺乳類 . 小田深山の自然Ⅰ . 小田町，pp 293 - 377 .
- 山本栄治（1986）: 小田町の哺乳動物（1）. 愛媛の自然，28（2）. pp .9 - 10 .
- 吉行瑞子（1976）: 屋久島のニホンキクガシラコウモリと近隣小個体群との関係 . 国立科博専報，9 . pp .173 - 183 .
- Yoshiyuki (1989): A Systematic Study of the Japanese Chiroptera. NATIONAL SCIENCE MUSEUM, TOKYO. 242pp .
- 森井隆三（1978）: 四国の翼手類 その1 . 動物と自然，8（8）. pp .5 - 10 .
- 澤田 勇（2000）: コウモリ談義 . 小田深山の自然Ⅰ，小田町 . pp 461 - 481 .
- 山本栄治・土居雅恵（2000b）: 洞窟性コウモリの観察記録 . 小田深山の自然Ⅰ . 小田町，pp 379 - 438 .
- 山本栄治・土居雅恵（2000c）: テングコウモリ飼育日記 . 小田深山の自然Ⅰ . 小田町，pp 439 - 460 .

本報告では引用していないが，愛媛県のコウモリに関する記載がある文献を以下に記す .

